

再建だより

(第14号)

工事の途中経過とご寄付の芳名一覧

- ・本堂工事
 - ・外構工事はじまる
 - ・ご寄付の芳名一覧
- 伽藍再建寄付金
仏像仏具寄付金



これからの予定

- 10月中旬 木工事完了
- 10月下旬 木製建具建込完了
- 11月初旬 畳敷込完了・清掃
- 11月中旬 完了検査・手直し
- 11月下旬 引き渡し

伽藍再建落慶法要 平成31年2月24日(日)

落慶法要につきましては、あらためてご案内を申し上げます。

上の写真の通り、本堂の鬼瓦が取り付けられて、屋根瓦工事が無事終わりました。

一方、本堂の内部は、鴨居、敷居が取り付けられました。一般住宅では見ることのない、分厚い長押も取り付けられ、太い柱と相まって禅寺らしさが日に日に増しております。

現在は、天井を張る工程に入っております。本堂の室中という中央の畳敷き部分の天井も、広縁の天井も、仕切りを設けず、大きな天井となりますの

でさらに広さが感じられそうです。本尊様を安置する内陣の天井は、格子を組んだ格天井（ごうてんじょう）で張られています。また、庫裡玄関の天井も高低差などをつけておりませんので、すっきりシンプルな印象になると思います。

玄関に上がるところの式台も、檜の無垢材で取り付けられましたが、汚れや傷がつかないように養生されていて、目にすることができない状態になっております。

目次：

外観が現れました。	2
木造？	2
中庭の作庭庵	3
伽藍再建の寄付者ご芳名	4
仏像仏具篤志寄付者ご芳名	7
本堂内外の様子	7
ご寄付の途中経過	7

外観が現れました。

本堂正面と、書院・庫裡の足場が外され、外観が見えるようになりました。

庫裡の妻壁に木組みが見えるようにしたのは、禅宗の庫裡のイメージを感じていただけるようにとの思いからですが、いかがでしょうか。

これまでのスロープの右側に、しっかりした擁壁を設ける

ための工事も進めております。擁壁ができたなら山門の基礎工事が始められる予定です。

下の写真の中央部分、擁壁の右側に山門が建てられますので、本堂の躰と庫裡の妻壁と山門とが一体となって、臨済宗のお寺らしさを感じていただけると思います。



木造？

本堂正面もだいぶできあがってきました。鉄骨造りなのですが、一見、木造に見えてしまいます。

いつもでも壁ができないと思っていたところに、杉板を横張りにした「鎧張り」の板壁が取り付けられましたから、余計に木造らしく見えるのだと思います。

本堂正面がこのように仕上がってくると、真正面に扁額を掲げたくなくなってきます。焼け残った額を再び掛けるか、新しいものを掛けるか、思案の真っ最中です。



建具と建具の間の板壁の張り方を「鎧張り」と言ったり、「下見板張り」と言ったりするそうです。壁板を抑えている材を籠子（ささらこ）といって、格式のある張り方なのだと、宮大工さんが教えてくれました。

中庭の作庭案

by Kimura Green Gardener

茶庭用語

腰掛待合 (こしかけまちあい)

茶事の時に、客が亭主の迎えを待つ場所で、片流れの屋根で、三方に壁を建てて内部に腰掛縁を設け、その前に客が足をのせる踏石が据えてあるものが多いようです。

枝折戸 (しおりど)

茶庭の外露地と内露地との間に設けられる、簡素な門の一種。

蹲踞 (つくばい)

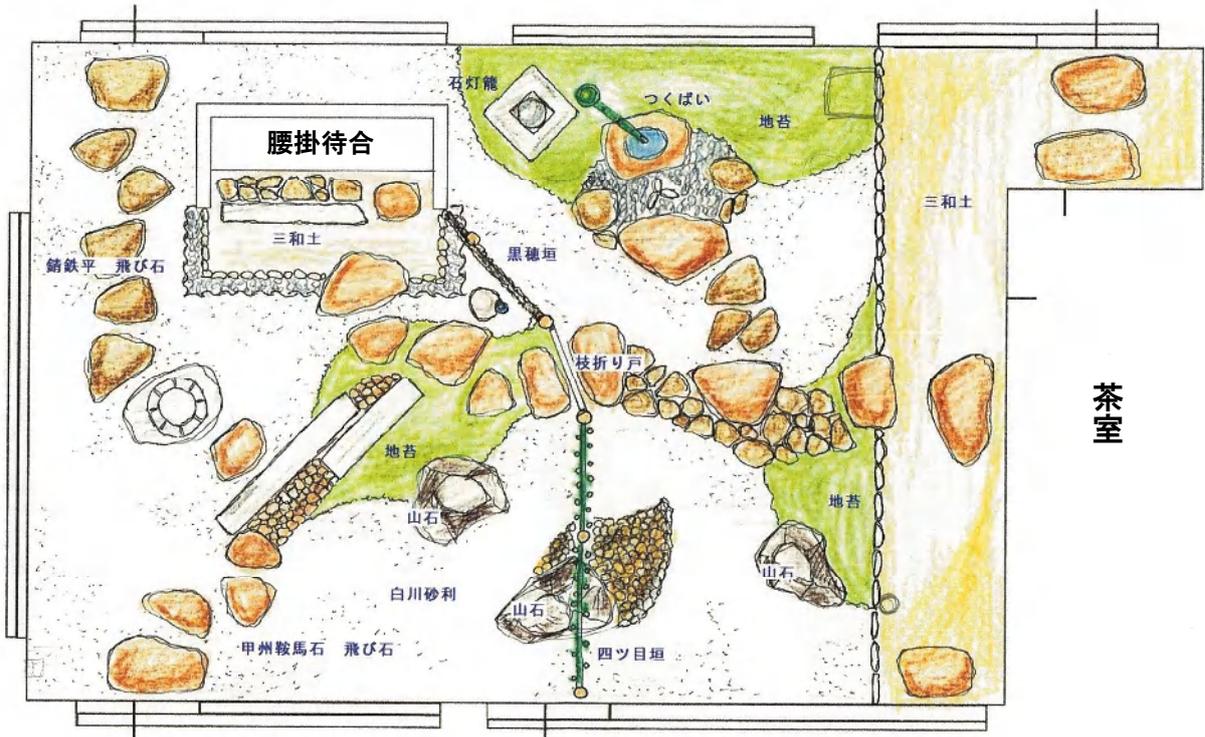
茶室に入る前に手を清め、口をすすぐための手水鉢 (ちょうずばち) や湯桶石 (ゆおけいし)、手燭石 (てしょくいし) などを含めた総称をいいます。

石灯笼 (いしどうろう)

灯火を灯すために屋外に置かれる石でできた灯笼ですが、もともとは仏様にささげる献灯でした。それが茶道に取り入れられて、露地に置かれるようになったといわれます。上から、宝珠・笠・火袋・中台・竿・基礎の各部から構成されます。



本堂



玄関ホール

書院

伽藍再建の寄付者ご芳名一覧

圓福寺伽藍再建にあたり、ご寄付の金額の目安を設けましたので、ご芳名一覧は五十音順とさせていただきます。なお、敬称は省略させていただきます。

あ	青木 和子	今尾 金久	加藤 のり子	小山 稔
	青山 信二	今津 萬寿身	加藤 好雄	さ
	秋山 智亮	今富 信行	角田 善一	齊藤 章
	浅田 光男	今村 ミトリ	金子 睦代	齊藤 加代子
	浅野 康弘	岩竹 宏	金田 睦	齊藤 里恵
	阿部 瑞恵	岩本 孝之	兼平 尚子	榊 祐子
	雨海 利昌	う	加納 かよ子	崎山 起一
	雨海 宏明	上野 和彦	神川 鋭一	櫻田 英治
	天宅 義和	上原 章	上條 文裕	佐々木 健二
	網野 清子	内田 準一	神山 孝夫	佐々木 瑞昌
	網野 と志子	梅田 三子	神山 龍郎	佐藤 征吾
	雨宮 理	梅村 信男	神山 龍郎	佐藤 トラノ
	雨宮 孝子	宇山 政博	亀山 宮日子	佐藤 房江
	荒井 恒夫	え	川上 ユキエ	佐野 道子
	荒木 世津子	江島 利雄	河西 達雄	三幣 久子
	荒木 義満	遠藤 孝平	川西 洋史	三幣 光子
	安藤 貴代恵	遠藤 澄子	川野 順子	し
い	碓 洋次郎	遠藤 幸男	河野 徹	塩月 高泰
	井黒 富子	お	川野 典昭	塩家 慶一
	池田 隆	大石 修而	川野 稔	志賀 秀年・常雄
	池田 治子	大釜 信子	菅野 光夫	重谷 和子
	伊佐治 尚文	大木 蔵	き	穴倉 英子
	石井 昭夫	大木 英男	菊池 愛子	篠崎 紀子
	石井 栄	大木 美智子	菊池 けい子	篠崎 良枝
	石井 幸子	太田 泰輔	菊池 千枝子	柴田 勝美
	石井 崇之	大野 洋一	菊池 宏明	柴田 耕作
	石井 誠	大原 智	北 道和	柴田 貴晴
	石川 信子	大原 康克	北 隆	柴田 美知子
	石田 泰子	大前 健一	北川 光子	清水谷 京子
	石津谷 義昭	大村 政博	北嶋 義雄	樹林寺
	石飛 政子	岡崎 尚志	北嶋 初江	祥福寺
	石橋 勲	岡本 君枝	北嶋 初江	白石 幸夫
	石橋 利明	岡本 正昭	木原 富志美	神野 大乘
	泉 隆子	岡本 正昭	木原 富士美	す
	磯 京子	小川 芳男	木村 信之	末森 鶴次
	五十川 シナコ	沖山 潤	木村 一	須賀 多恵
	磯部 和子	荻原 芙美子	清野 清忠	菅谷 晃
	市川 総五郎	奥田 恵津子	く	杉田 透
	市川 武司	奥村 富子	久保 克己	杉原 美乃
	市川 令子	奥村 元計	窪澤 達也	杉本 朝春
	井門 昭子	奥村 義則	熊谷 雅也	鈴木 一路
	井門 通正	奥山 キノ	熊倉 浩	鈴木 高彦
	伊藤 彰	か	倉内 雅彦	鈴木 春益
	伊藤 誠二	小栗山 金三	栗田 フミ子	鈴木 洋治
	伊藤 チヅ子	小栗山 久子	栗林 道夫	諏訪原 俊一
	伊藤 ノブ	落合 一雄	こ	清田 史代
	糸谷 恒一	小貫 晃	香坂 千香子	関口 朋史
	稲富 健一郎	甲斐 廣子	小路 かをる	関谷 勉
	犬飼 哲夫	貝塚 芳子	小坂 一彦	関山 俊弘
	今枝 孝行	柿内 節子	後藤 武康	関山 秀人
		角田 政雄	小林 秀幸	関山 隆三
		笠倉 とみ子	古原 澄子	瀬戸 昭
		笠倉 光代	小森 洋子	瀬戸 和子
		鍛冶屋敷 利夫	小山 暁	
		加藤 友康	小山 ハル	

【おねがい】

ご寄付のお申し込みをいただき、ご芳名は遺漏のないようにしております。この一覧をもとに寄付のご芳名額を作らせていただきますので、万が一ご寄付をお申込みいただいたのに、この一覧にお名前が見当たらない場合には、お寺までご連絡をお願いいたします。

せ	仙波 純一	な	長井 義孝	平野 京子	三好 よし乃
そ	曾根 紀枝		中内 照喜	平野 毅	む 向畑 鉄雄
た	平 静子		長尾 栄作	平原 広久	村木 房子
	高瀬 安生		永島 カヨ子	平本 和行	村山 國之助
	高橋 邦明		中島 正夫	平山 実	も 望月 正彦
	高橋 卓三		中島 睦	廣田 拓治	元木 正裕
	高橋 千秋		中臺 節子	ふ 福岡 真人	本吉 好夫
	高橋 敏勝		仲野 武彦	福澤 睦夫	森 房子
	高橋 弘美		仲野 寛子	福田 和夫	森川 静枝
	高平 初枝		中野 光進	藤井 十郎	森谷 厚子
	高間木 亨		永野 洋子	藤澤 和美	森本 征生
	高柳 光寿		中村 鈴江	藤沢 好子	や 八木 英二
	高山 隆志		中村 治男	藤並 旺子	矢崎 仁紀
	高山 利弘		中村 宏	藤野 由里子	安井 美沙子
	武内 壽一		中本 恵美子	布田 平左衛門	安森 古
	竹内 修一		中山 孝司	船田 正博	梁川 勝治
	竹内 秀哉		菜花 富士子	古川 晴彦	梁川 範幸
	竹内 美江子		生井 正一	ほ 保住 憲	矢野 宗欽
	竹内 綏明		成迫 光徳	細井 宏太	矢野 弘明
	竹中 力	に	西蔭 悠史	細川 洋子	矢野 洋二
	竹場 和好		西川 浩平	堀川 淑子	八幡 哲由
	蛸島 美保		西川 淳子	本庄 久	藪 裕彦
	舘小路 哲矢		西田 キヨ	ま 前川 梢	藪本 欽也
	舘山 信秋		西原 朗	前田 秀典	山桐 伸一
	田中 脩一		西森 静子	正木 喜美夫	山田 和秀
	田中 雅子		二宮 修	増澤 功子	山田 徹
	田中 典郎		二宮 忠夫	松尾 妙子	山田 比呂子
	谷口 光徳		二宮 博子	松尾 英紀	山田 浩
	谷脇 照美	の	野口 千代	松岡 康子	山田 万智子
	多福寺		野口 友治	松木 幸仁	山中 晴子
	田村 洋子		野々宮 静子	松坂 正	山本 昭夫
つ	塚本 旭央	は	橋本 久枝	松崎 清司	山本 欽造
	塚本 和子		畠山 清明	松崎 義	山本 寿美
	塚本 勝身		波多野 充	松島 健治	山本 哲弘
	塚本 敏広		八田 由子	松田 汎司	よ 横田 寛
	土橋 哲夫		服部 修実	松丸 正憲	横山 順一
	土屋 博光		服部 十久男	松本 登美江	善國 信隆
	土屋 靖江		馬場 佳一郎	み 三上 勝己	吉田 史
て	手塚 喜久子		馬場 正子	水越 克己	吉村 利晴
	出本 光子		浜詰 靖博	水谷 昌平	り 臨溪院
	寺澤 和枝		林 哲郎	水野 昭夫	麟祥院
	寺西 静子		原 悦子	水野 吉郎	わ 和田 春樹
と	常世田 政信		原 愛美子	水野 光四郎	和田 春樹
	鳥巢 和子		原 かね子	道下 敏子	渡邊 榮子
	鳥巢 聡子		原田 久美子	宮崎 正博	渡邊 憲一
	鳥巢 純子	ひ	原田 皓市	宮下 貴子	渡辺 初江
	鳥巢 英樹		彦坂 知行	宮本 和敏	渡辺 道子
	土橋 澄子		久本 あい子	三吉 恭平	渡邊 光江
	富高 琢磨		平澤 辰子	三好 ちづ子	
	戸村 泰		坦田 修	三好 ミチコ	

仏像仏具篤志寄付者ご芳名一覧

仏像仏具をあつらえるためのご寄付は篤志とさせていただきますので、ご芳名一覧は寄付額の順とさせていただきます。

高橋 敏勝	様	鈴木 高彦	様	高瀬 安生	様
櫻田 英治	様	柿内 節子	様	道下 敏子	様
宮田 格	様	山本 寿美	様	道下 森	様
前川 梢	様	鈴木 洋治	様	久本 あい子	様
雨海 宏明	様	沖山 幸	様	山田 和秀	様
野口 千代	様	矢野 弘明	様	篠崎 良枝	様
網野 と志子	様	渡邊 光江	様	川西 洋史	様
稲富 健一郎	様	広渡 寛行	様	北畠 初江	様
塚本 和子	様	小貫 晃	様	碓 洋次郎	様
安藤 貴代恵	様	川上 京一	様	内田 準一	様
神野 大乘	様	土屋 真由子	様	雨宮 孝子	様
塚本 勝身	様	高橋 邦明	様	清原 哲嗣	様
向畑 智恵子	様	生井 正一	様	竹内 美江子	様
小山 暁	様	雨宮 理	様	荒井 恒夫	様
佐藤 とも子	様	吉田 史	様	石橋 勲	様
笠 龍桂	様	神川 鋭一	様	中島 睦	様
網野 清子	様	柴田 美知子	様	矢野 洋二	様
鷹羽石材	様	浅田 光男	様	大石 千恵子	様
向畑 鉄雄	様	杉本 朝春	様	柴崎 郁代	様
市川 武司	様	田中 脩一	様	五十川 シナ子	様
市川 令子	様	山田 浩	様	原田 久美子	様
梅田 三子	様	小林 義之	様	石井 崇之	様
関山 秀人	様	小林 百合子	様	山田 徹	様
菅野 光夫	様	石澤 悦子		佐野 道子	様
曾根 紀枝	様	義久	様	太田 美智子	様
土橋 哲夫	様	紳司		塩家 慶一	様
仙波 純一	様	直樹		和田 美恵子	様
塩月 高泰	様	高山 利弘	様	波多野 充	様
高間木 亨	様	熊倉 浩	様	上野 和彦	様
大原 康克	様	馬場 正子	様	梅村 信男	様
二宮 修	様	古文書館	様	和田 春樹	様
平山 實	様	神山 實枝	様	川口 育海	様
荒木 義満	様	栗田 フミ子	様	井原 咲幸	様
				井原 空希	様

【おねがい】

ご寄付されたにもかかわらず、この一覧にお名前が見当たらない場合には、お寺までご連絡をお願いいたします。

本堂内外の様子



本堂西側の足場が片づけられ、火頭窓が連なる壁面が姿を現しました。いかにも、禅宗様式の建物の印象を受けます。

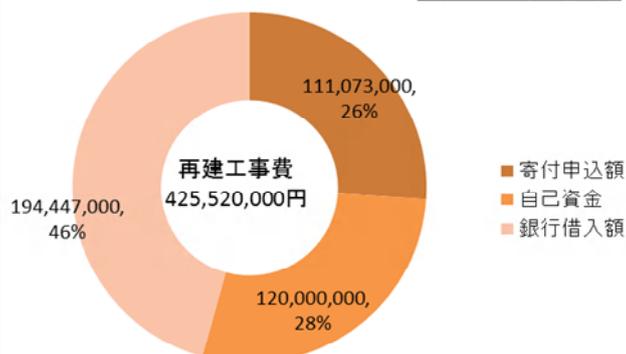
本堂内部に目を転ずると、室中の広い天井も張り終えております。横一文字に渡された鴨居の上に、「竹の節欄間」（たけのふしらんま）が取り付けられ、かつて本堂前にそびえていた高野檜を板材にしたものをはめ込みます。

右下の写真は、内陣の格天井（ごうてんじょう）が完成したところです。

ご寄付の途中経過

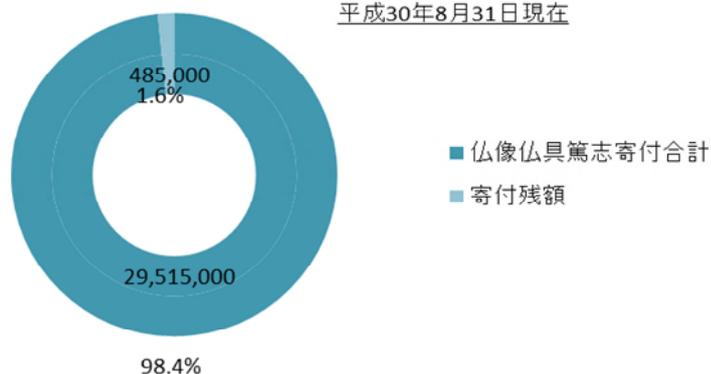
資金計画進捗状況

平成30年8月31日現在



仏像仏具篤志寄付途中経過

平成30年8月31日現在





工事現場の片隅に、色とりどり、丸や四角の入れ物が置かれています。そのどれもに水が入られ、ようかんのような形のもの浸されています。子どもの水遊びの途中ではありません。

ようかんのようなものは、すべて「砥石」でした。砥石が乾かないように、丸いバケツや四角いプラスチックケースに水を入れて浸けてあるのです。これらの砥石は、いうまでもなく、大工さんが使うカンナやノミを研ぐためのものです。

伽藍再建工事の完成予定が伸びた原因の一つに、大工さんの確保が難しかったというのがあります。宮大工さんが手がけるところ以外を普通の大工さんをお願いしようとあてにしていたところ、カンナやノミを貸してくれという職人さんもいて、「それでも大工って言うんでしょうか？」と驚いていました。つまり、カンナやノミを使う仕事をしていない、まして砥石なんか持っているはずもありません。そんな大工？さんに仕事を任せられるはずもなく、工期が遅れてすみませんとのことでした。

砥石が浸されているバケツがあったら、それは宮大工さんの現場だ、という時代なのかもしれません。

臨済宗妙心寺派 圓福寺

千葉県稲毛区穴川町375

電話：043 (251) 9181

FAX: 043 (251) 9549

電子メール：oshou@chiba-enpukuji.com